創世記3章16節——違反の後にエバに語られた神のことば

Hans-Jörg Ronsdorf · 2021年5月 · 2026年10月改訂

聖書の「3章16節」には、ただならぬものがあります。ヨハネの福音書3章16節だけでなく、モーセの第一の書（創世記）のこの節もそうです。ほかにも印象的な「3章16節」がありますが、それはもちろん偶然です。章の区分と番号付けは十三世紀に、節の区分と番号付けは十六世紀になってようやく、後から付け加えられたものだからです。

私たちが関心を持っているのは、エバが禁じられた実を食べ、それをアダムにも与えた後に彼女に語られたことばが、**何を意味し、何を意味しないのか**ということです。それが重要かどうかは、この文章の終わりで分かるでしょう。ここに、この節のいくつかの翻訳を挙げます。

> 女に向かって彼は言われた。わたしはあなたの妊娠の苦労を大いに増す。あなたは苦しみのうちに子を産まなければならない。そして、あなたの欲求はあなたの夫に向かい、しかし彼はあなたを支配する。（Elberfelder CSV〔ドイツ語聖書翻訳〕）
>
> そして女に向かって彼は言われた。あなたが身ごもるとき、わたしはあなたに多くの苦労を負わせよう。あなたは苦労のうちに子を産まなければならない。そして、あなたの欲求はあなたの夫に向かうべし。しかし彼があなたの主人となるべし。（Luther 2017〔ドイツ語聖書翻訳〕）

私はこのことばから、いつも次のように導き出し、解釈してきました。もしかすると皆さんもそうかもしれません。神はエバの違反を罰して、出産が過度に困難で痛みに満ちたものになるようにされた。そして、彼女が自分の夫に心を向けるとき、彼女は自分を支配する者に出会うことになる、と。ルターの言葉の意味（「あなたの主人となるべし」）に従うなら、この支配は神が望まれた階層的秩序だということになります。男はかしら、女は助け手、というわけです。

このことばの中で、一種の分岐点が生まれます。私たちは女性を、そして彼女の行為の影響の大きさ、動機、罪責を、どのように見るのでしょうか。その際（いつものように）、翻訳が見過ごせない役割を果たしています。

この二つの翻訳では、**苦労と妊娠**は二つの名詞であり、互いに結びつけられ、あるいは互いに関係づけられています。ところが、この節を統一訳（Einheitsübersetzung〔ドイツ語聖書翻訳〕）やチューリッヒ聖書（Zürcher Bibel〔ドイツ語聖書翻訳〕）で読むと、ある重要なことに気づきます。

> 女に向かって彼は言われた。わたしはあなたに多くの苦労を備える。**そして**あなたはたびたび身ごもるようになる。あなたは痛みのうちに子を産む。あなたは夫を慕い求め、そして彼はあなたを支配するであろう。（Einheitsübersetzung）
>
> 女に向かって彼は言われた。わたしはあなたに多くの労苦を与え、**そして**あなたの妊娠を数多くする。あなたは痛みのうちに子を産むであろう。あなたは夫を慕い求め、そして彼はあなたを支配するであろう。（Zürcher Bibel）

後の二つの翻訳では、苦労と妊娠は互いに直接の関係を持っていません。つまり、**二つのもの**、すなわち苦労と妊娠が増し加えられるのです。

あるヘブライ語の読み手が私に確認してくれたように、はっきりと文字どおりには、こうなっています。「……わたしはあなたの苦労、そして（UND）あなたの妊娠を、大いに増し加えよう……」。

ある自由訳はこうまとめています。わたしはあなたの骨折り仕事とあなたの妊娠を、二倍にも何倍にもする。あなたはやっとの思いで子を産むであろう。しかし、あなたの欲求はあなたの夫に向かい、そして彼はあなたを支配するであろう。

私の見るところ重要なこの特徴に私が気づいたのは、ブルース・フレミング（Bruce Fleming）の本[1]によってでした。彼はこの節を次のように訳しています。

> **わたしは必ず増し加える。（1）畑でのあなたの骨の折れる労働と、（2）あなたの受胎とを。**

それから神は、女に、彼女に、また彼らに何が起こったのかを、死ぬべき者となり堕落した今になって、教えられます。

> **あなたは骨折りのうちに子を産むであろう**
>
> **あなたの〔愛する〕欲求はあなたの夫に〔向かう〕**
>
> **しかし彼は〔自分自身に対して反逆的に支配し、そして〕あなたを支配するであろう。**

16節の前半におけるこの区別が、なぜ重要なのでしょうか。それによって、エバへのことばがまったく違う響きを帯びるからです。そしてさらに重要なことに、違う内容を帯びるからです。**まず第一に、神のこの語りかけの中で、エバにはいかなるのろいも下っていないことを確認するのが、きわめて重要です。まったく逆なのです！**まず彼女に予告されるのは、農業に関して多くの苦労と骨折りがあるだろうということです。そこには家畜の世話や、そのほかの生活を支える手仕事も含まれます。「苦労」という語はこの形で三回だけ出てきますが、いつも畑での骨の折れる労働を意味しています。アダムはそれを次のように聞きます（創世記3:17）。大地はあなたのゆえにのろわれる。「あなたは一生の間、**苦労**してそこから食べることになる。」そして後にレメクが、息子ノアについて次のように言います（創世記5:29）。「この子は、主がのろわれた大地のゆえの、私たちの働きと私たちの手の**苦労**について、私たちを慰めてくれるだろう。」

アダムは、禁止を十分に知りながら、ただエバから実を受け取って食べました。しかし神ののろいはアダムに下るのではありません。のろいは大地に下ります。**エデンにおける、もう一つの恵みです。**その結果は、食物を得ることにおける苦労です。生きることは、エデンとは違って、生き延びるための闘いとなります。そしてエバも同じ大地に生き、二人は夫婦としてともに人生に立ち向かっていくのですから、彼女にもアダムと同じ苦労が及びます。その理由はエバではなく、アダムにあります。彼の行為のゆえに大地がのろわれたのですから。

ところが今、最初の文の後半で、良い知らせ、福音がやって来ます。妊娠が増し加えられるのです！

違反にもかかわらず、エバは創造の使命を果たすことを許されています。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」違反にもかかわらず、物事は先へと続いていきます。多くの子孫が生まれるでしょう。さらに重要なことに、その子孫の一人が蛇の頭を踏み砕くことになるのです。蛇は先に、神が自分に向けて語られた次のことばを聞きました。

> 〔創世記3:15〕わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち砕き、おまえは彼のかかとを打ち砕く。

このことばは、原福音（プロトエヴァンゲリウム）と呼ばれています。**しかしそれは悪魔に向けられたものであり、悪魔にとっては決して良い知らせではありません。**けれどもそれから蛇は、神が、子孫が、女の子孫（種）が生まれることを確かにし、保証されるのを聞かなければなりません。それはエバにとって良い知らせです。アダムにとっても、そして園の中で一緒に耳を傾けることを許されている私たちにとっても、そうなのです。

こうして、エバへのことばは、まったく違う意味、肯定的な意味、希望に満ちた意味を帯びるのです。

子を産むことはエバにとって骨の折れることになるでしょう。アダムにとって農耕がそうであるように。堕落の後、生きることは別のものとなりました。エバがこのことばを聞いたとき、彼女はまだ一人の子も産んでいませんでした。蛇とアダムは、のろいと罰のことば、すなわち以前とは違う、否定的なその後のことばを聞きます。エバは違います！神はエデンで女に語られたとき、女のからだを変えられたのではありません。ところが、ある翻訳は、まるで神が女を何らかの形で変え、出産をひどいものに変えてしまったかのように響きます。

子を産むことは、今日の世界の多くの地域にあるような医療の手段が手に入らなければ、危険を伴う出来事です。しかし神は、女性たちの側に立っておられます。神は彼女たちの助け主であり、救い主です（テモテ第一2:15）。

イエスはたとえを用いて、弟子たちにこう言われました。この方こそ、園でエバと語られたのと同じ方だと考えてよいでしょう。

> 〔ヨハネ16:21〕女は子を産むとき、つらい思いをします（あるいは「苦しみ」）。自分の時が来たからです。しかし子を産んでしまうと、一人の人が世に生まれた喜びのために、その苦しみ（あるいは「痛み」）をもう思い出しません。

16–19節の書き手は、人間の生の厳しさ、とりわけ生の創造的な側面、すなわち子孫を残すことと食物を生み出すことについて、決着をつけています。かつての屈託のなさに、今や苦労が混じります。良いもの（子孫、食物）が、悪いもの（苦労）とともにやって来るのです。

関係の破綻

二人の関係は、どのようなものとして考えられていたのでしょうか。「意味深い二つのヘブライ語、**ezer kenegdo** によって、神は二人が互いにとってどのような存在として定められているかを描いておられます。二人は互いのために造られ、わずか数時間の差で造られました。ともにいる

ようになるとすぐに、二人はエデンの園でともに暮らす、実り豊かで満ち足りた夫婦となるはずでした。……**ezer kenegdo** とは、対等な者、対となる者、互いに自分の強みを分かち合って助け合うことで、もう一人とともに働く者のことです。……この語は、互いに向かい合う二人の人物の姿を思い描かせます。それは「vis-à-vis（向かい合って）」、「明らかに向かい合う」、「対応する」、あるいは「等しい」と訳すことができます。」[2]

神のこの意図は、今やもはや満たされません。二人ともに、今や苦労が及び、最後には死が及びます。二人の関係も、もはや同じではありません。エバは自分の子どもたちの父となる者に心を向け、彼に自分を委ね、彼のそばにいたいと願います。しかし、身体的により強い男性の性は、神の委任なしに指導的な役割を奪い取ります。女の上に立ち、彼女を利用し、抑圧します。世界の歴史は、それを何百万回となく裏づけてきました。もちろん、いつものように例外は別です。そうした例外は、いつの時代にも、どこにでも繰り返しあったし、今もあります。

エバはどのようにふるまったのか

彼女は惑わされました。偽り者であり人殺しである者にだまされたのです。そのことで神が彼女に語りかけられたとき、彼女は最も大きな罪のある者、すなわち蛇を指し示します。

> 〔創世記3:13〕神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「**蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。**」

エバは蛇から距離を置き、蛇を訴えます。エバが雪崩を引き起こすことになったその大きな違反は、惑わしによって起こりました。そして彼女は、自分が食べたことを認めます。彼女の態度は、アダムの態度よりはるかにすぐれています。彼女の違反の程度は、彼の違反とは比べものになりません。

「創世記3章13節に描かれているとおり、神は女に尋ねられました。『あなたは何ということをしたのか。』**彼女は言い逃れをせずに神に答えました。彼女は非難をせずに神に答えました。彼女は男とはまったく違う仕方で語りました。**彼女はもはや欺かれてはいませんでした。もしかすると、神が男に問いただされるのを聞いたとき、彼女にはすべてがはっきりしたのかもしれません。いずれにせよ、彼女は今や何が起こったのかを見て取りました。その新たな知恵によって、彼女は悪を見抜き、こう言いました。『蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。』この答えによって、彼女は悪い蛇こそが自分を欺いた源であることを暴きました。そして、自分が欺かれている間に行った悪を告白しました――『それで私は食べました』。彼女もまた、男がちょうど今したように、さらに悪を重ねたでしょうか。いいえ。彼女は自分と一緒にいた男を責めたでしょうか。いいえ。彼女は神を責めたでしょうか。いいえ。それなのに、聖書が彼女について私たちに語っていることは、彼女がしばしば描かれてきた姿とは違います。そして彼女についてのこの誤った描き方は、もう長い間存在してきたのです。」[3]

エデンでは、だれもが一口ずつ食べました。しかし、その不従順の程度は異なっていました。それぞれの心の中で起こっていたことは、同じではありませんでした。

アダムは、ほとんど反抗的に、さらに悪いことに、非難するように応じます。

> 〔創世記3:12〕人は言った。「**私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。**」

アダムはまず、罪をエバに転嫁します。そして神にも転嫁します。それはまさに神に対する告発であり、まるで創造者ご自身に罪があるかのようです。それによって彼は、神よりも蛇の近くに立っています。エバは、アダムよりも神の近くに立っています。ですから、この場面でより重要な役割を与えられるのもエバです。彼女は（アダムではなく）子孫を持つことになり、その子孫がすべてを覆し、新しい、よりすぐれたエデンの根拠となるのです。もはや誘惑する者がいなくなる場所です。

惑わす者

蛇は、攻撃の後で逃げることができません。神は蛇に語りかけ、こう言われます。おまえは自分が困ったことになるのが分かっているな！わたしは、女が今言ったことを聞いた。そして彼女のことばは真実だった。おまえは彼女に嘘をつき、欺いた。そして彼女は今、おまえのしわざを明らかにした。わたしは彼女とおまえを敵対する者として確定する。おまえは彼女の子孫のかかとを刺すだろう。しかし彼女の子孫はおまえを滅ぼす。おまえの頭をだ。

サタンは誘惑する者でした。彼は女も男も惑わしたのです。[4]創世記3章1–5節のヘブライ語本文は、彼が「あなたがた」と言うたびに、複数形の代名詞を使っていることを示しています。言い換えれば、彼はことばを女だけに向けたのではありません。彼は「あなたがた二人」、「あなたがた皆」、「あなたがた両方」と言ったのです。そして男はそこにいて、彼が言ったことを聞いていました。

彼は神を攻撃し、真理をねじ曲げます！彼は、二人が本当に神のかたちに、神に似せて造られたことを否定します。彼は対案を示します。この実を食べなさい、そうすればあなたがたは神のようになる。彼は良い知識を提供しているかのようにふるまいます。彼が本当に提供しているのは、二人が善と悪を知るようになることなのです！[5]

まとめ

エバに語られたことばが、どれほどさまざまに解釈されてきたかが、いくらかでも明らかになったなら幸いです。それぞれの解釈、あるいは解釈の色眼鏡によって、エバについての新約聖書の箇所は、ある種の「色合い」を帯びます。それはわずか二つの箇所です。

> 〔コリント第二11:2–3〕私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。
>
> 〔テモテ第一2:12–15〕私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。むしろ、静かにしていなさい。アダムが初めに造られ、それからエバが造られたからです。そして、ア

> ダムはだまされませんでしたが、女はだまされて過ちを犯したのです。しかし女は、慎みをもって、信仰と愛と聖さにとどまるなら、子を産むことによって救われます。[6]

惑わされることは現実の危険です。エバはその一つの例です。女性のほうが惑わされやすいからではありません。それを本文から引き出すことはできません。彼女は、そうしたことがどのように起こりうるかを示す、印象深い例なのです。惑わされること、欺かれることは、女性の問題ではなく、人間の問題です。新約聖書でこれらの語を調べてみてください。そこではいつも、すべての人、男性も女性も問題になっています。

堕落の責任は、アダムが負わなければなりません。エバは被害者でした（もちろん、それでも責任はあります）。アダムは加害者でした。彼は「手を上げて」、つまり故意に罪を犯しました。目を開いたまま、神の命令を十分に知りながら、彼は実を食べたのです。エバがすべての生きている者の母であるにもかかわらず、エバではなく彼が、堕落した人類のかしらとなります（ローマ5章、コリント第一15章）。

「神が木のそばの三者を裁かれるとき、神はその裁きのことばにおいて、男をサタンと並べておられます。[7]神は女を、これら二人の反逆者とは分けて扱っておられます。彼女は意図的に反逆したのではないからです。彼女は惑わされた後で、はじめて不従順になったのです。」[8]

エバを、その行為とことばをどう解釈するかは、女性に対する見方に影響を及ぼします。この文章は、そのために、まさに最初のところを改めて見つめ直すために書かれたのです。

Hans-Jörg Ronsdorf、2021年5月25日 hj-ronsdorf@t-online.de

注

1. Fleming, Bruce; Fleming, Joy; Hagemeyer, Joanne. The Book of Eden, Genesis 2-3: God Didn't Curse Eve (or Adam) or Limit Woman in Any Way。Kindle版、96頁。
2. Fleming, The Book of Eden, 33頁。
3. Fleming, The Book of Eden, 56頁。
4. パウロが二度、エバが惑わされたと言っているのは、彼女が最初に語り、反応し、行動したからです（コリント第二11:3、テモテ第一2:14）。
5. Fleming, The Book of Eden, 54頁参照。
6. この節について、私は詳しく書いてきました（拙著「Frauen, vergebt uns!」（『女性たちよ、私たちを赦してください！』）6.3章）。それは女性に対する普遍的な教えることの禁止ではなく、テモテがこのパウロの手紙を受け取ったエペソにおける具体的な問題です。パウロの警告はこうです。教えを受けておらず、学んでいない人は、女性であれ男性であれ、ほかの人を教えるべきではないし、教えることもできない。集会においても、ほかのどこにおいてもです。なぜなら第二の手紙で、彼ははっきりとこう言っているからです。〔テモテ第二2:2〕「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たち（ギリシア語 anthropos。人間、すなわち男性と女性）に委ねなさい」。集会においてであれ、単にどこであれ、学ぶ意欲のあるどんな聴き手に対してであれ、そうなのです。パウロがこのことばでここで女性にも教えるよう促しているからといって、彼は自己矛盾に陥っているのではありません。むしろそれは、エペソでは一人の女性、あるいは何人かの女性が問題だったことを示しています。それは男性であった可能性もありました（しかしこの状況ではそうではありませんでした）。
7. このことは、蛇へのことばとアダムへのことばが似ていることからも分かります。
8. Fleming, The Book of Eden, 110頁。